広報 横芝

3月は｛国保税　第10期　有線使用料　第6期
4月は｛軽自動車税　年金保険料　第1期
5月は｛固定資産税　有線使用料　第1期
｝納期です

〔完納に　明るい笑顔の　町ずくり〕

公社接続に踏切った有線放送

更に

小中学生の学校生活の録音放送も計画

公社接続に改修準備中の横芝町有線放送電話では、運営委員会が中心となって有線放送の広報的使命の効果を、より良くするため、教育委員会事務局及び各小学校と打ち合せ、マイクを通して、児童の声を毎朝放送しているが「まだ物足らない、いま一歩突込んだ利用を」との保護者の声が強いので、四月からは教育長、学校放送主事等による放送委員会（仮称）を設けて週少なくとも二回位は、学校放送の時間を設け、又青少年健全育成の実態等も放送する計画をしている。茶の間に集まったおぢいちゃん、おばあちゃん、お母さん、そして妹さんが、お孫さんの、お子様の、そしてお姉さんの学校における生活を、有線のテレホーンから聞くことの出来るのも間近いことであろう。

尚、有線放送運営委員会では、これからは議会の決議事項、地域の出来事等もマイクを通じて迅速におしらせすることも研究中であるという。

◎有線の申込みは一応二月中で締切りましたが、まだ全然申込書の出ない部落があるようです。お配りした印刷物の関係もあり、又何か途中で渋滞している向も考えられますので、三月二十五日まで受け付けを延期しました。（但し一、七〇〇戸に達しますと期限内でも締切ります）

若し、手続き其他お分りになりません時は、印鑑を持って直接役場においで下さい。

郷土の先覚者の碑等を

清掃する青少年相談員

横芝町青少年相談員協議会では、花いっぱい運動、桜の植樹等と、地域環境の浄化に努めているが、今年度最後の行事として、郷土の先覚者、海保漁村、安塚光太郎両先生の碑や忠魂碑等を清掃し、更に東部土地改良区第一号用水堤の桜並木の手入れも行なった。毎度「青少年の善導は、環境の浄化か！」のモットーを掲げて活躍する、わが町の青少年相談員は、町民の一般から、「頼りになる指導階層」と、大きな期待を寄せられている。

尚、昨年青少年相談員の諸君が植樹した、桜の苗木は、すくすくと伸びて、ふる里の話題の桜のよう、鳥喰耕地整理後の農道に咲誇る時、横芝町には、良き青年美わしい心を持った人々の花が豊かに咲き乱れるであろう。

上堺小学校に

夢の体育館

教育委員会では、屋内運動が出来ず、雨の折等に窓から恨めしそうに空を眺めている子供達のために、本年度からの継続工事として屋内体育館を建設することになった。

総面積　一三二坪　鉄骨造り

工費　八七四万円ですでに地鎮祭も終り近く着工する。

第一号用水堤の桜並木で天狗巣病を取り除く青少年相談員

新入学の子供さんをお持ちの方々に！

◎まずからだの準備を　からだはすべての基礎

入学準備でいちばん大事なことは健康です。健康なからだであれば、知能はそれについて発達します。つぎのような病気が発見されたら入学前に治療しておくことです。（トラホーム・はやり目（結膜炎）・しっしん・白せん・水ぼうそう・かいせんなど）

◎予防接種もわすれずに

学校は集団生活です。伝染病にかかったら、みんなが迷惑をします。ジフテリア・種痘・チフスなどの予防接種は、必ず受けてください。

◎医者の指示にしたがって生活環境が変化します

それだけ体力を消耗しますから「おかしいな」と思ったら、しろうと治療をすることなく、医者の診断を受け、その指示にしたがうようにしてください。

小学校は、いいところ　あがってみても、いいところ

「いいこと。いよいよ小学校よ！小学校は幼稚園とちがって、先生もきびしいのよ。勉強をしないと、すぐに叱られるんだから」「……………」こういったとき、お子さんの目をみてごらんなさい。（何だか知らないが、小学校って不安な場所なのだな、こわいな。）そのおびえた、かわいそうな目……。「こんなことができないと、小学校へはいってから、みんなに笑われますよ。」とか、「そんなにやさしいことが覚えられないようじゃ、先生にしかられますよ。」というように、〈小学校へはいってから、こまるぞ〉という恐怖を利用して、お子さんに何かを教えたり、習わせたりしないことです。お子さんは、まだあがりもしない小学校を、「小学校はいやなところだなあ。小学校は大きらいだよ！」と、すでに不安な場所と考えてしまいます。

郡町村会表彰に輝く

瀬理　通氏

永年勤続表彰で　本間・大木両氏

山武郡町村会では、昭和四十一年二月十二日、山武産業振興会館で、町村議員の功労者を表彰したが、横芝町からは、農業相談所長、瀬理通氏が此の栄ある受表者に選ばれた。氏は、産業課長、総合農業相談所長等の役場の職務を歴任しそれ以前に県の農業会の技術員等の要職に在った手腕を生かした。産業面に果した功績を認められたもの。又本間重寿、大木ユキ両氏も、永年勤続（共に二五年）者として、全国町村会から表彰され、三月八日に役場会議室でその伝達式が行なわれた。

三沢地方の大火

義損金

青森県三沢地方の大火に対する義損金は、二月二十五日現在で三十二地区の御協力、（総額四万七千百拾円）が届いています。役場厚生課では一応締切り、皆様の御芳志を三沢市宛に発送することにいたしました。二月二十六日からの分は三月末にまとめて再発送する予定です。

■春と乳幼児■

三、四、五月頃の暖かい春の気候は誰でも体全体がのびのびと成長するように感じられます。たしかに全ての生物はこの季節に成長することは事実です。

然し春は寒い冬と比べて、かえって風邪を引く人が多いのはどうした訳でしょう。

これは寒暖に対して私たちの皮膚の調節がうまくとれないのも大きな原因ですが、それ以外にこの時期には特に体内のビタミンが非常に少なくなっているため病気をするのだとも言われています。

夏から秋にかけて貯えられたビタミンも冬の間に使いつくして、もう体内にはビタミン類がないと言う姿が春先です。このため春には病気が多いのです。

だからこの季節には風邪ひきの人や病人のそばに、乳幼児を近づけないこと。着物の調節に気を配ること。肝油やビタミンB剤を補給すること。などが強くさけばれているのです。

又この季節には湿疹で悩む子供も多くなりますから、かきくずした所など消毒薬をぬって、ばい菌がはいらぬようにしてやります。湿疹はできるだけ刺戟しないようにしてください。

春は日の光が強く気温も高くなって来ますから子供は外出につれ出して日光浴や外気浴をやるようにしましょう。又着物はいつまでも冬の着物では困ります。寒暖に応じて着せかえましょう

春は乳幼児の野遊びの季節ですが、折角の日曜、天気はよし、今日を逃しては鍛錬の日はないというような気持で無理な野遊びなどは禁物です。軽い疲労は心身に良い影響をあたえますが、過労になると鍛錬どころか、かえって害を伴うことになります。

子供の疲労の最初のあらわれは、不きげんになり、口をきかなくなったり、或は逆に急にはしゃぎ初めたりします。このような場合は注意して早く帰途につくことです。

ふるさとの話題

樹　木　(2)

横芝尋常高等小学校の高等科農業専科訓導吉原先生は、校舎添に流れる土地改良組合の第一号用水路のほとりに立って辺りを眺めていた。昭和五年の四月、新しい尋常一年生が嬉々として学校に通い始めた頃である。麦もすっかり伸び、雲雀は朗らかにさえずっている。カタカタと筆入れの音をさせてカバンをゆすりながら走り去る子供達……麦畑の中に点在する松の林や立木が陽光にゆれている、まことにのどかな田園風景であった。吉原先生は教職にある自分の倖を心から、満喫していた。が、此の風景の中にも何か一つ物足らなさを感じていた。「何だろうか？」そんなことを考えている先生の耳に、音楽室の方から流れてくる唱歌が聞えて来た。

日本の国は花の国
梅、桃、桜、藤、あやめ
白露結ぶその中の
千草の花も面白や、
わきて名に負う
吉野山、一目千本咲満ちて
…………

「……ああ、花だ、花がすくないんだ。若し此の流れに沿った堤が桜だったら随分見事だろうなあ……　あの新らしい帽子に徽章を輝かせながら手を繋いでくる一年生に、ハラハラとふりかかる花びら、水に流れる花びらを追う子供達……霞の奥に消えて行く花の幕……いいだろうなあ、……」桜咲く堤の夢を画いていた先生は、ポン、と肩を叩かれて吾に返った。ふり向くと、首席訓導の古谷先生が立っていた。

「古原先生、何を考えていますか？」

「花、花ですよ、古谷先生、桜の花ですよ」

「……桜！」

「此の堤が、若し桜の並本であったらば随分見事だろう、と考えていたところです」

「うーん、君も考えていたんですか、実は私も桜のことを考えていたんですよ」

「先生が？」

「ああ、此の付近に桜の苗本を植えることを、ね」

「苗木……ですか。しかし、それでは花が咲くのは五年先か、いや並木になるのは十年先のことか分らないでしょう。第一それまで私達が此の学校に……」

「いない、といいたいのかね……吉原君、いや吉原先生、先生は、日光や箱根の杉並木を知っているでしょう。あの杉並木も、植えた時は、みんな苗木だったんですよ、その苗木を植えた大名も決して自分達があの並木を眺めようとは思わなかったんではないかね。いま私達が「立派な世の中のためになる人になれ」と教育している子供達も、本当に世の中のためになってくれるのは、十年、二十年は愚か或いは四十年、五十年後のことかもしれませんよ……」

首席訓導古谷先生の声は次第に熱を帯びて来た。

「……分りました。私は目の先ばかり考えていたようです。間違っていました……古谷先生……二学期には植林の実習があります。その教科に組入れて下さい。そして桜の苗木を植えさせて下さい」

「まあ、まあ急いではいけないよ、校長先生のお考えもあるだろうし、第一、此の堤は土地改良事務所の管理になっているんだから、その了解も得なくてはいけないからね」

……………………

……そんな話があって約半年……堤に樹木を植えることの功罪について論議はあったようだが、中島春吉校長、古谷喜藤次首席訓導、吉原専科訓導の指導で、農業専攻の高等科一、二年生が用水の堤に桜の苗木を植付けている姿が見られた。

――　三十五星霜。当時の桜の苗木は、来る春毎に爛漫と咲き誇り、三百本の老樹は今や近在屈指の名所に数えられている。

横芝駅から上堺方面に向ってまっすぐに県道を下り、舗装道路が途切れると、〃一の橋〃という石橋がある。此の下を流れるのは、山武郡東部土地改良第一号用水路で、その流れに沿って延々二粁にわたって約三百本の桜並木が連なっている。枝振りの風雅さ、幹や根張りのたたずまいは、「横芝にこんな立派な桜が」と目を見張らせる。特に春四月ともなれば、若草萠える用水堤は花の幕を引きめぐらし、その姿を流に映して、まことに美しい風情を見せる。商店街の人々は此の桜の下にボンボリ等を配して夜桜を楽しみ、若し揚水を止めて溝底が現われれば、その中に莚や毛氈を敷いて酒盃をかたむける粋人の姿も見られるという。まことに長閑な環境は、駅前の車輌の雑踏を二百米の先に置く地点とは到底想像が出来まい。

◎本稿は、当時の高等科の生徒で、吉原先生や古谷先生の指導により直接桜の植樹をされた方々からお聞きした事柄を収録し、それを元にして創作したものであるが、先生の氏名は、実名通り掲載した。尚、文中の古谷首席訓導（現在の教頭に該当する）は後に校長を勤められた。古谷喜藤次先生で、今もなお元気に松尾町で悠々自適の生活を続けておられることは、案外多くの方々が知っておられるようである。（文責筆者）